

地質調査技士に合格して

旭ボーリング（株） 伊東 孝明



この度、地質調査技士に合格することができました。この場をお借りして、受験勉強をご指導して頂いた諸先輩の方々に、お礼を申し上げます。

今回の受験で感じたことは、資料や文書での勉強も大切だと思いますが、現場作業などの実際に経験してこそ理解できることも多いと思いました。

ボーリングの現場では、その場・地点によって、資材の準備から段取りまで違ってることが多く、いかに安全に、そして効率よく作業をすすめるかが大事で、毎回学ぶことが多くあります。

試験勉強では、勉強ができる環境づくりが大切だと感じました。

毎日の仕事をしながら試験勉強をするのは、非常に大変です。私の場合、仕事が終わってから、会社で勉強しました。

会社で勉強するメリットは、会社には参考書や専門書があるので、調べることができます。さらに、それでも分からない問題や気になることは、上司や先輩方に聞くことができます。

試験勉強で理解できたことで、仕事が

スムーズに進められたこともありました。

また、たとえ試験に落ちても、何度でもチャレンジすることも大切なことだと思いました。不合格になった時には、「あれだけやったのにダメだったのか。もういいや。」という気にもなりますが、やはり、それを乗り越える勇気と努力が必要だと思っています。

後輩の皆さんも、諦めずに、是非最後までチャレンジして欲しいと思います。一方で、私が今までに先輩方から教えて頂いたように、今度は後輩たちを教える義務と責任があると思います。教えるためには、自分で理解していなければなりません。そのためには、やはり勉強が必要です。普段から、分からないことをそのままにしたり、適当に解釈して進めるのではなく、きちんと確かめる習慣が必要だと感じました。

今後は、地質調査技士に合格したことにより、今まで以上に責任感を持ち、地質調査技士の名に恥じないように、更なるレベルアップを目標として、より一層日々の業務に取り組んでいこうと思います。

応用地質（株） 松村 大志



私は地質調査業に従事して6年あまりになります。これまでに経験した業務を通して、現場技術・知識をある程度習得してきたつもりでしたが、職務上重要な資格を取得していませんでした。

私は、担当する業務分野から長期出張を伴うことが多くありますが、今回受験した7月も、そのような条件の中でした。

業務で忙しく勉強の時間なんて…と自分に言い訳し、前回の受験は不合格の結果でした。

本年度も、4月から7月まで被災地沿岸の現場に常駐していたため、まとまった学習時間を確保するのが難しい状況でした。しかし、改めて被災地を目の当たりにしたとき、「今回は合格したい」、「合格して少しでもこの被災地の人々のために役に立てる技術者になりたい」という気持ちが湧いてきました。

周りの先輩方に、どのような学習方法をとったか聞き、参考にさせて頂きながら夜な夜な試験対策をしました。

「まずは過去問を何度も徹底的にやりなさい」とのアドバイスから、全てを一度解いてみて、間違ったり、勘で正解してしまった問題をピックアップし、理解できるまで繰り返し解きました。3.11の地震に絡めた設問も出るだろうと予想して、地震のメカニズムやそれに伴う現象をノートに書き出し、自分なりに整理しました。

過去問を1度目に解いたときは、仮にも

専門としている地質の現場技術はともかく、「設計・施工」や「入札・契約精度・仕様書」は、ろくに正解できず悔しい思いをしました。

マークシート式は、考えれば分かる問題だけではなく、正確に覚えていないと正解できない問題が多く出題されており、復習と暗記を繰り返し、頭に叩き込みました。

記述式問題に関しては、経験論文・選択問題ともに、自分なりに原稿にまとめたものを先輩に添削してもらい、さらに何度も修正したものを、暇を見つけては読み直し、全体の流れと何をアピールしたいのかを、効率よく分かりやすく、相手に伝えられるよう努めました。

当日の手ごたえは「まだまだ勉強不足」を痛感したところですが、何とか合格することができ、ようやく技術者としてのスタートラインに立てたと思います。

近年における地質調査技士の役割は、国土交通省において主任技術者の資格要件に追加されたこともあり、年々重要になっていると感じます。

この業界で仕事をしていく上で資格というものは、技術者の力量を示す一つの指標ですが、私にはまだ「地質調査技士」としての技術も、知識も経験も十分とは言えません。しかし、資格試験を通して学んだ知識と根気を現場に持ち帰り、正確で適切な調査に結び付けられるよう、努力したいと考えています。